

令和7年9月24日

部農会長・部農会会員の皆様へ

JA ふじ伊豆 伊豆の国地区
韮山営農経済センター

秋耕のご紹介

秋耕は来作の稲の生育を向上させ、ジャンボタニシの対策にも繋がりますので収穫後の秋起こしの実施のご検討をお願いします。

●秋耕とは

秋耕とは稲刈りが終わってから、秋の間に耕うんを行い、稲わらや稲株をすき込むことです。秋耕をしっかりと行うことで、メタンガスの発生を抑え根張り促進させ翌年の品質の向上に繋がります。

●秋耕により得られる効果

1. 稲わらの腐熟促進

圃場内の稲わらの腐熟を促進することができます。腐熟を促進することで、翌年の代かきを行いやすくすること、水稻の生育に必要なケイ酸等を土壌に還元することで水田の保水力の向上や肥料分の向上を図ることができます。

2. 水稻の移植後のガス対策

秋のうちに稲わらを十分に腐熟することで、ガス害の原因となる硫化水素の発生を抑制できます。ガス害は気温の高くなる7月～8月頃に発生し、移植後の水稻の初期生育が遅れることで減収の原因になります。そのため、秋耕は温室効果ガス排出削減と水稻経営面の両面で効果が期待できます

●実施方法

秋に乾きやすい圃場では、5cm～10 cm程度のすき込みを行う

※乾きにくい圃場では、浅く溝を掘り水の逃げ道を作る

→以下の資材を活用することで、稲わらの腐熟を更に促進させます。

●ワラ分解キング 10kg/10a 価格 2,370 円（税込み）

備考：稲わらに直接ふりかけて使用してください。降雨後など稲わらが湿った状態だとより効果的です。

施用後は、5～10 cm程度すき込んでください。